

---

# ナニガイイタイノ

花灯

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ナニガイイタイノ

### 【ZPDF】

N1208F

### 【作者名】

花灯

### 【あらすじ】

ある日僕はその存在を知った。たんたんと流れる日常の中で唯一心を揺さぶられるその存在。何を僕に教えようとしてくれているのか。

## 忘れてきたモノ

気付くといにいた。

辺りはとても暗くて、空氣も流れていない。

雜音もない、メロディーもない。

目をつぶっているのか？とも考えたがどうせひざうではないらしい。

とりあえず足を前にだしてみる。

今は自分の足で立っていてひざと動けるらしいことわかる。

今度は手を振つてみる。

手も動く。その時後手に何かがあたつた。

少しためらつたが後ろに振り返つて見る。

今まで向いていたのが前だとするならば、たぶん後ろなのだろう。

振り返つてみるが何もない。

そつと手のあたつた辺りをもう一度確かめてみる。

何も見えないが膜がはつてあり壁のようになつている。

手には触れるものの、何故かそれが近くにあるように感じられない。

その壁すみたいに歩いてみる。

すこし歩くと角があり、四角い形にぐるっと囲まれている何かだとわかつた。

あちこち調べてみたが何もみつかない。

どーにもならないと思い、あきらめてその場にすわりこんだ。

それからどれくらいの時間がたつんだろうか。

いやそこに時間なんてものはないのかもしねない。

ふと壁の膜の中に何かの存在がかすかに感じられた。

普段は怖がりの僕だったが何故か怖くはなかった。

そこに誰かいるの？

呼び掛けてみるが返事はない。

深呼吸をしてもう一度呼び掛けてみる。

返事はない。

壁に顔を近づけ皿を凝らしてみると、

人の肌のようなものがぼんやりと見えてきた。  
そこで何をしてくるの?

やつぱり返事は無い。

しかし声をかけるたび、肌の色は濃くなり、何となく全体が見えて  
きた。

ようやくその存在が子供であったのだとわかった。

子供が裸で座っている…

体を縮めて、足を抱えた子供。

そして腕の隙間からじわじわとじっと見つめている。

もう一度声をかけようとしたその時、遠くで憂鬱な音が聞こえた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1208f/>

---

ナニガイイタイノ

2010年10月30日09時57分発行